

ANNUAL REPORT 2019



石巻市子どもセンターが出来た経緯



震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下「SCJ」という)は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市3つの地域で子どもまちづくりクラブが発足しました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、“夢のまちプラン”を作成し、そのプランを市に提案しました。“夢のまちプラン”の中の色々な想いを1つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」(以下、子どもセンター)です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。

子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所

子どもセンター 条例前文

子どもは一人の人間であり、子ども一人ひとりが生まれながらに権利を持っています。子どもが幸せに健やかに成長するためには、多くのことが必要であり、子どもたちは次のように語ります。

私たちを中心に、話し合ったり、ふれあったり、交流できる場が必要です。

それにより、大人も含めた幅広い年代の人とのつながりを大切に、絆を深めることができます。

みんなが楽しめて、ゆったりできる場が必要です。それにより、私たちは安心して心と体を休めることができ、笑顔が増えます。

私たちが運動できる場が必要です。それにより、体を動かして楽しく遊ぶことができ、心身ともに、健康に成長することができます。

私たちが学べる場が必要です。それにより、お互いに教え合い、考えることが好きになり、理解することの楽しさを知ることができます。

私たちが自由に社会に意見を発信できる場が必要です。それにより、自主的に活動できるようになります。

さらに、まちの未来について考えることが地域の活性化につながり、さらに多くの人に私たちのまちのことを知ってもらうことができます。

だから、私たち子どもが中心となって活動する子どものための施設をつくっていきたいです。

石巻市は、この子どもたちの想いを形にするための施設となる石巻市子どもセンターを設置することにより、生まれながらに持っている子どもの権利が尊重され、子ども一人ひとりが幸せで健やかに成長できる社会につながることを期待し、ここに「石巻市子どもセンター条例」を制定します。

子どもセンター事業体系図

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。

子どもの権利には「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。

この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

子どもまちづくりクラブ
子ども会議
子ども企画
Big Voice
まきトーーク
子ども実行委員企画イベント
└ ハロウィン祭り・らいつ夏まつり
らいつの日005

子どもエンパワー事業

アートラボ
料理王
Earth Teens
青春力 -Youth Power-

子育て支援事業

親子ではび☆はび
親子でほかほか
音楽であそぼう！
ベビーマッサージ
パパ講座
Mカフェ
休日子育て相談事業

地域との
連携事業

企業との
連携事業

移動児童館事業
稲井、釜、蛇田

研修事業
子ども子育て支援者講座

子どもの
権利啓発

らいつで子どもたちの声が 実現する生態系図



子どもセンター 運営会議



子どもセンターの運営について話し合ったり最終決定する場です。子どもの声を反映して運営されるように子どもセンターに関わるおとなと子どもがいっしょに話し合います。大人委員5名（地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている方）子ども委員5名（子どもまじづくりクラブから2名、子ども会議から3名）で構成されています。毎回、議題の他に子どもの権利ワークショップも行い、ともに学びました。

3月3日 開館5周年イベント「らいつの日005」報告、Wi-Fi設置に関して検討 / 利用者実績、利用者アンケート報告と来年度について検討

6月2日 子どもまじづくりクラブと子ども会議の活動について報告 / 児童館改正ガイドラインについて検討

10月6日 Big Voice報告、来年度の事業内容検討

土日の開館時間変更について

約60名の中高生を対象にした利用時間についてのアンケートにより、土日の利用時間の延長を希望する人が多いことが明らかになりました。そこで、子どもセンター運営会議では、土日の利用時間を17時から19時までに改定する意見をまとめ、市に提言しました。それにより、2015年7月から土日の開館時間が19時までに延長されました。

子どもセンターの愛称「らいつ」



全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた「らいつ」が選ばれました。「らいつ」の由来は、英語でrights(権利) lights(ひかり)の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。

子ども 参加事業

人と関わるのが多くなって、まきコミ祭など、大きな企画にも参加出来て良かった。沢山のひとと関わりと県外のひととも居たので、色々な地域の事を知れた。活動を通して、人に積極的に話しかけられるようになった。

子どもまちづくりクラブ

子どもまちづくりクラブは、小学5年生から高校生までの子どもたちが地域の一員として、まちづくりに取り組んでいる活動です。2019年は4つのプロジェクトに分かれて活動しました。

子どもの権利に基づき運営や事業に子どもの声を活かすとともに、子どもがアクションを起こし、子どもの声を社会に発信する、子どもセンターの核となる事業です。

「まきコミ祭」プロジェクト

「もっと若者を呼び込んで石巻をにぎやかにしたい!」という子どもたちが昨年に続き「マンガ・アニメ」をテーマにしたコスプレイベントを企画運営しました。昨年の参加者アンケートで「まち歩きをする時間がとれなかった」という声があり、屋内イベント時間を短縮し、手作り「まち歩きマップ」の配布を実施。その結果、まちなかのお店やフォトスポットで撮影するなど、まち全体がコスプレイヤーでにぎわう1日となりました。(来場者数121名)

「らいTube」プロジェクト

石巻のまちの魅力やらいつの様子をYoutubeで発信! Youtuberから動画編集の方法を学び、実際に撮影も行いました。

「川開きゴミ問題」プロジェクト

石巻最大のお祭り「川開き祭り」で多くのゴミが出ていることからまちをきれいにしようと、2017年から行っています。2019年は、まちなかを歩いてゴミ拾いを行いました。

「防災」プロジェクト

子どもたち自身が防災や震災について伝えたり話したりする場をつくろうと活動しています。

1月 らいつの日005準備/運営 2月 活動報告(全国子ども施策自治体シンポジウム2019/福岡県)、活動の振り返り 3月 震災を風化させないためのモニュメントについて、活動報告(TBCラジオ) 4月 2019年度の活動について 5月 子どもだけの意見交換会「まきトーク」、防災プロジェクトについて 6月 まきコミ祭について、フィールドワークについて 7月 まきコミ祭について、まちコス(福島県)参加 8月 まきコミ祭準備、らいTube活動(川開き祭り撮影)、川開き祭りゴミ拾い活動 9月 まきコミ祭開催 10月 いしのまきハロウィン祭りにてお菓子&まち歩きマップ配布 11月 子どもの権利条約フォーラム2019(東京都)参加、石巻市子どもの権利に関する条例10周年記念フォーラム参加、らいつの日006について 12月 らいつの日006準備、防災プロジェクトについて

2018年までの活動 立町大通り商店街のマップ作成、震災を風化させないためのモニュメント制作、水産イベントの実施、石巻の歴史マップづくり、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まちフラッグ」の制作等

まきトーーーク

5月19日(日) 9名(小1~高3)

〜令和時代の石巻まじ察し。でもそんな石巻がすこWW われら、絶対いしのまきを楽しくするマン!〜という若者ことばを使ったテーマで、某TV番組のように子どもたちが「石巻芸人」となり、「石巻の好きな所」や「こうなってほしいところ」を考える機会としました。子どもまちづくりクラブでテーマとして出していた「震災伝承」「観光」「商店街」「発信」「特産品」から自分が知りたいテーマごとにチームに分かれ、まち歩きをしながら「推し」(力を入れて取り組んでいること)、「察し」(困っていること、課題に感じていること)を調査し、アイデアを劇や絵にするなど各チームが様々な手法で発表しました。今まで入ったことのないお店の発見や地域の人たちとの出会い、年下の子を年上の子がサポートして地域の方に質問をするなど助け合う様子もみられ、その後まちづくりクラブへ入り活動する子も出ました。



子ども会議

子ども会議は、子どもセンターの利用方法に子どもたちの声を反映するため、小学4年生から高校生までのメンバーが、毎月様々な意見を出し合っています。今年は「子ども会議の参加を増やすためには？」など、様々なテーマで話し合いました。「子ども会議を行っている部屋は、会議の様子が見えにくいから別の部屋で行うのはどうか」という意見から、館内の色々な場所で開催。また、館内入り口のホワイトボードに会議内容の報告や、話し合いたい議題の募集を書いたりしたところ、新しいメンバーや見学者が増えました。

その他にもホワイトボードに「スポーツ室2Fの見学スペースにボールを上げた場合のルールを変えてほしい」と書いて提案した子どもに会議へ参加してもらい話しあったり、子ども会議の役割である「子ども企画の承認」について、「スピーディに承認してほしい」という企画者の意見から承認ルールを変更したりしました。新しいHP作成をきっかけに、らいつのイメージカラーの決定もしました。子どもたちは、利用者の代表であるという自覚を持ちながら、自分たちで考え実行しています。

＜2019年の子ども会議の議題＞

カラオケの新曲について／屋上とベランダの使い方について／子どもセンターのカード忘れの対応について／おもちゃの寄付について／子ども企画の承認について／今年度の子ども会議の開催方法について／Big Voiceについて／「見学スペースにボールを上げたら1時間待つ」ルールについて／らいつの色について／石巻市子どもの権利標語の「らいつ賞」について／らいつの利用方法について／Wi-Fiの利用について(計2回)

Big Voice

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBigVoiceを開催しました。

BigVoiceは、子ども会議メンバーが企画実施を行い、利用者に子どもセンターについて楽しみながら意見を出してもらえるよう工夫をしています。

今年は「らいつのいいところ」「これからのらいつをどうしたいか」「らいつでやってみたいこと」について、利用者がらいつに求める思いを知るためにアンケートの配布や模造紙を設置して意見を集めました。「いろんな世代の人が遊べる」「もっと人が集まるような場所にしたい」「スライム作りをらいつでしたい」など多くの声が集まりました。また、多くの利用者に子ども会議で話しあったらいつの利用方法やルールについてや、料理王やアートラボなどのイベントについて、楽しく知ってもらうために「らいつクイズ」を作って利用者に解いてもらいました。BigVoiceで出された意見は、今後の各事業や利用方法に反映していきます。

みんなと協力するのが
おもしろかった



参加したみんなが
楽しそうだった



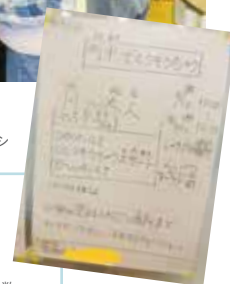
(企画する中で)
たいへんだったこともあるけど、
ドキドキワクワクでたのしかった



町中で逃走中チラン

2019年 子ども企画一覧

提案者	内容	結果	実施日	参加人数
乳幼児	コマ回し大会	可決	1月5日	7名
小学生	スイッチでマリカ!	可決	1月27日	7名
中学生	スマブラ大会	可決	3月30日	14名
高校生	卒業進級パーティ	可決	未実施	
小学生	花育	可決	6月29日	13名
小学生	スイカわり大会	可決	8月4日	14名
小学生	町中で逃走中	可決	8月14日	6名
小学生	水鉄砲大会	可決	8月25日	14名
小学生	クリスマス会	可決	12月21日	6名



子ども企画

子どもセンターでは、子どもたちがいつでも自由にやりたいことを企画できます。普段やりたいと思っていることをなかなか実現できない子ども、職員のサポートを受けながら、実現させることができます。「子ども企画」は自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることの楽しさや難しさ、そして企画が成功したときの達成感を感じることができます。子どもたちから提案された企画は、そのとき遊びに来ている小学生・中学生・高校生各1名ずつの3名以上の子どもたちによって、実現できるかどうかの議論を行います。楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認になります。

今年は、最年少企画となった乳幼児企画の「コマ回し大会」や、自分たちで講師を招いて生け花教室をした「花育」企画、商店街のお店や地域の方に協力してもらった「街中で逃走中」企画といったものから、主催者が次々変わりながら定番化している「ゲーム大会」まで乳幼児から高校生までの様々な世代の企画者による様々な企画が実施されました。日常的な関わりの中で、職員が子どもたちに寄り添いながら、子どもたちの「やってみたい」心に火をつけ、失敗も含め、見守ることを大切にしています。

子ども 実行委員 企画イベント

らいつでは、子どもたちが参加しやすい子ども参加の仕組みの1つとして、年に数回、子ども実行委員を募集して、子どもたちが主体となってイベントを企画運営しています。



夏祭り

子どもたちがやりたいことを自分たちで企画し、店長となって準備していきます。今年は、子ども実行委員会で「1日を通して、来館した人を楽しんでほしい」というねらいを立て、時間帯によってお店の内容を変えるなど、運営方法を考え、実施しました。流行りのタピオカ屋さんや定番のたこ焼き屋さん、ボウリング屋さんやポケモンカード体験会など様々なお店が来店！高校生による弾き語りライブでは、小さい子から大人まで、曲に合わせて楽しくダンス。最後はみんなでBINGO大会を行いました。子ども実行委員からは「長時間で疲れたけど、たくさんの人と交流できた」「(沢山の人に来てもらうために)お店の場所を変えるとよかった」などの声がありました。

実施日：8月24日 参加者：179名

石巻ハロウィン祭り

元々は子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて「商店街でハロウィンパーティを開催する」を提案実現したハロウィン祭り。今年の子ども実行委員会では「子どももおとなも、まちの人にも初めて来た人も楽しめる」をテーマに企画運営しました。まちなかでお菓子集めでは、昨年より多い50ヶ所の商店街や地域の方々に協力頂き、衣装した子どもたちがまちを練り歩きました。ハロウィンライブでは高校生が大人と一緒にセッションしました。ほかにも衣装コンテスト、衣装づくりブース、ハロウィンカフェ、ハロウィンメイク、脱出ゲームと大盛り上がりの1日でした！

実施日：10月26日 参加者：916名

協賛：アイトピア大町会、アイトピア銀座会、立町大通り商店街振興組合、中央一大通り会、橋通り商店街振興組合 / 協力：いしのまき元気いちば、一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまなぼう、COMMON-SHIP橋通り



らいつの日005 (ゼロファイブ)

らいつの開館を祝い、関わってくれている方々に感謝を伝える「らいつの日」。今年も子ども会議やまちづくりクラブメンバー、有志の子どもたちが実行委員となり、企画運営しました。らいつ5周年の今回のねらいは、『5年間を振り返り、未来のらいつを創造するためのきっかけ（交流・話し合い）を作る』。新たなつながりをつくりアイデアを出し合う時間にしたい！という想いを子どもたちが込めて、開催しました。

実施内容：活動報告会(子ども会議とまちづくりクラブ)/ワールドカフェ/スポーツ大会/キッズダンス/感謝の会/未成年の主張/宝探し/ライブ/ビンゴ大会/らいつツアー/感謝状コーナー/モザイクアート 実施日：1月20日 参加者：193名

子ども エンパワー 事業

子どもの様々な興味関心を引き出し子どもが地域や社会とつながることで、自分のもつ力や可能性に気づき、次の一歩を踏み出すきっかけをつくります

アートラボ

芸術を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることができる事業です。自分の気持ちを言葉でうまく表現できない子どもたちにもプロの芸術に触れて、自分の可能性を広げてほしいと願い、取り組みました。今年は、身体表現として「ダンスinらいつ」を開催しました。ヒップホップやブレイクダンスに挑戦し「初めて踊った!」と新たな表現を体験する場となりました。また、「スライムを作りたい!」という子どもの声から、スライム作りも行いました。今後も、子どもたちの表現の多様性を大切に、実施していきたいと思います。

2月23日「カホン教室」カホン工房アルコ、株式会社山野楽器 佐藤勇さん 8名 / 5月11日「染物(玉ねぎ染め)」子ども∞感ばにー 15名 / 8月7日「実験教室」石巻市サイエンスラボ 24名 / 9月21日「ダンスinらいつ」DANCE SCHOOL ATOMS佐藤宏さん 7名 / 10月5日「スライムをつくろう」子どもセンター職員 10名 / 12月開始「らいつ看板をつくろう(連続講座)」巻組 4名

めざせ! 料理王

食を通じて、子どもたちが地域や社会と交流を深める事業です。地域の方を講師に招き、家で簡単に作れる料理を地域の方と交流しながら学んでいます。今年は、手作りまんじゅうや、石巻の食材を使ったピザなど、様々な料理に挑戦しました。石巻魚女子部を講師に開催した「めざせ! ほやマスター」では、特産物のほやをさばいて調理し、参加者からは「初めてほやを食べた」「ほやをむくのが楽しかった」と、大好評でした。今後も地域の方々とのつながりを大切にし、子どもたちの声をたくさん取り入れたプログラムにしていきたいです。

1月12日「丸めて作ろう手作りまんじゅう」Mimiのおまんじゅう屋さん 8名 / 4月14日「季節のフルーツロールケーキ」自然食堂さん 14名 / 6月23日「めざせ! ほやマスター」石巻さかな女子部 6名 / 8月19日「てづくりパフェをつくろう」Café蓮 15名 / 10月29日「みんなで楽しくピザづくり」みんなのカフェanranrificant 〜ランラン フィシカント〜 15名 / 11月10日「さつまいものカップケーキ作り」Mimiのおまんじゅう屋さん





Earth Teens

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」そして「考えたい」気持ちを育てる事業です。

今年は様々な交流や体験をしようといっつを飛び出し、「山キャンプ」の初開催や火について学びみんなで食べたいものを持ち寄った「堤防での火おこし体験」など、楽しみながら学べる企画を実施しました。また、毎年好評の「屋上で野菜を育てよう」「北上川でのカヌー体験」も開催しました。らいつだからできる経験や身近な社会について考えられる活動を子どもたちの声に応じて実施していきます。

2月8日「チョコ作りで学ぼうフェアトレード！」フェアトレードカンパニー株式会社 村田さん 12名 / 3月23日「らいつを飛び出そう！」宮城県漁業協同組合、沢田かき処理場、(株)まるたか水産、海苔漁師相澤みづるさん 14名 / 5月26日「春だ！山だ！防災ビクニック」子どもセンター職員 8名 / 6月8日「らいつの屋上で野菜を育てよう～次世代の畑～」株式会社水沢種苗店 グリーンサム 9名 / 7月3日「北上川カヌー体験」NPO法人ひたかみ水の里 18名 / 7月27、28日「山キャンプ」こども∞感ばにー、子どもセンター職員 11名 / 10月20日「HalloweenParty」子どもセンター職員 15名 / 12月21日「はじめてのたき火」子どもセンター職員 9名



青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることのできる事業です。今年は、中高校生が参加しやすく、みんなで交流できる企画にしたい！ということで、みんなでごはんを食べる企画を多く開催し、多様な層がらいつに来るきっかけづくりを行いました。学校や学年も超えて集まったことで、「新たなつながりが見つかった」「みんなで食事ができて楽しかった」と好評でした。また、各企画で地域のおとなやらいつ卒業生を招きゆっくり交流しました。らいつを拠点に地域のおとなと中高生がつながれる機会にもなっています。

1月26日 新年会 8名 / 2月23日 らいつごはん～たこやきパーティ～ 3名 / 4月27日 屋上 BBQ 21名 / 5月25日 先輩マルシェ 9名 / 6月13日 恋愛トーク 2名 / 7月20日 浴衣着付け体験 3名 / 8月9日 屋上BBQ 16名 / 9月28日 屋上映画観賞会 13名 / 10月27日 堤防芋煮会 12名 / 12月23日 鍋で忘年会 10名

子育て 支援事業

仲間や地域とつながり、いっしょに育ちあうことを大切に実施。子どもの権利を大切にしながら、子どもの育つ力を引き出すイベント、親子でホッと安心できる場づくりをしています。



親子ではぴ☆はぴ 年間参加者数 314名

0歳児とその保護者を対象にした6週連続講座です。地域で活躍する様々な方を講師に招き、週替わりで子育てに関する様々なテーマで講座を実施。毎回サークルも生まれ、子育ての輪が広がっています。年3回開催。



ベビーマッサージ

年間参加者数 178名

はいはいまでの乳幼児親子対象です。親子のスキップの方法や赤ちゃんの権利、赤ちゃんの社会参加の視点の大切さを学んだり、子どもの様子を聞いたり話したりするママの情報交換の場になっています。毎月1回開催。



親子でほかほか

年間参加者数 198名

助産師さんチームと「やさしい抱っこやおんぶの方法」、「おんぶグッズの選び方」などお話ししながら実践を通して学ぶことができる「だっこおんぶサロン」を開催。抱っこやおんぶには赤ちゃんの権利の視点がいっぱい。妊婦さんの参加も増えています。隔月1回開催。



パパ講座

年間参加者数 50名

ベビーとキッズにわかれて3B体操を楽しみました。お家でもできるからだ遊びをたくさん教わり、パパも子ども達も楽しそうにしていました。それを見守るママ達も笑顔で、優しい時間が流れていました。パパのスキルアップにも、ママのリフレッシュにもなっています。



Mカフェ

年間参加者数 1,277名

子どもも保護者もゆっくりゆったり過ごせます。乳幼児親子がホッと一息つける場所。お茶をしたり、みんなでわいわいランチをしたりしています。クッキングや製作、月1で石巻市図書館さんへいらっしやいます。毎週月曜開催。

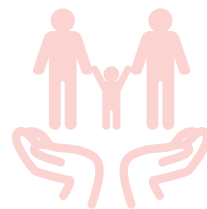


音楽であそぼう！

年間参加者数 356名

しっかり歩く1～2歳児対象。（空きやキャンセルがあれば3歳以上も参加出来ます）音楽に合わせて、楽器、ボール等を使って親子で楽しく身体を動かしました。リピーターの多い人気プログラムです。毎月2回開催。

休日子育て相談事業



土曜日及び日曜日にも子育てに関する相談をおこなっています。10時～15時は「休日子育て相談員」がいますので子どもと過ごしながらかつたりと相談することができます。

移動 児童館 事業



児童館から遠い地域の子どもたちに遊び場を作り、子どもの遊びの必要性や子どもの権利について様々な地域に根付かせ、地域で子どもを見守るネットワークづくりを促進します。今年度は、昨年度に引き続き震災以降、石巻市内の人口移動が多かった稲井地域、釜・大街道地域、蛇田地区に焦点を当て、子どもたちの放課後の様子や、子どもたちの遊びの現状を幅広い地域で調査していくため、遊び場を通じて子どもたちの声をきいていくことを目的として開催しました。

稲井地区	: 6月29日	参加者 59名	@ 稲井小学校
蛇田地区	: 3月6、13、27日	参加者 12名	@ 蛇田公民館
釜地区	: 11月8日	参加者 87名	@ 釜小学校

研修事業



子ども一人ひとりが、今を生きる主体として大切にされ、自信と希望を持って育つことのできる地域や社会をつくるために、多様な視点から学びました。

1月17日	子どもたちを取り巻く性的現状とニーズ ～相談対応の方法～ 佐藤初美氏 / 参加者 9名
2月21日	地域におけるこども参加 半田裕氏 / 参加者 17名
3月7日	子どもたちの放課後の居場所① 「放課後児童クラブ」 齋藤昭雄氏、三田和子氏 / 参加者 14名
7月4日	子どもにとっての遊びとは？ ～子どもの遊びに関わる大人と地域の役割～ 関戸博樹氏 / 参加者 26名
11月24日	子どものやってみたいを引き出すしかけ ～子ども通貨が生み出す地域のつながり～ 松村幸裕子氏 / 参加者 10名

企業との 連携事業



企業の持っている専門性を子どもたちに伝えたい。そして、企業の方にも子どもの権利を知ってもらい、子どもにも力があることを知ってもらいたい。そんな思いが一致した企業と連携し、企業の持っているプログラムを子どもセンターで実施しています。

- | | | |
|-------|---|------------|
| 5月25日 | 子どもセンターフラワープロジェクト～商店街とらいつをお花でかざろう～
サントリーフラワーズ株式会社から花苗などをご提供いただき実施。子どもと商店街の方と一緒に花を植え、商店街に飾るこの活動は、2014年より毎年行っています。
サントリーフラワーズ株式会社、サントリーホールディングス株式会社 | 15名 |
| 8月19日 | 盲導犬体験イベント
共催：サントリーフーズ株式会社東北支社 協力：公益財団法人日本盲導犬協会 | |
| 12月7日 | つくってみよう！「光の箱」ワークショップ
株式会社乃村工藝社から「光の箱」をご提供いただき実施。子どもや保護者の方と一緒に「光の箱」を作り、東京のお台場と石巻で飾るこの活動は、2013年より毎年行っています。
株式会社乃村工藝社 | 17名
83名 |

地域との 連携事業



子どもたちが地域の皆さんと顔の見える関係で日々つながることで、地域の皆さんに、さらに子どもたちの様子や子どもの権利を知ってもらったり、子どもたちがより多くの大人にかかわっていったりする機会としたい。そんな思いから、地域の皆さんと一緒に様々なプログラムや活動を実施しています。

- | | |
|--------------|---|
| 7月7日 | 目指せ！剣玉マスター
剣玉初心者も楽しくあそべる剣玉イベントを開催しました。石巻剣玉部による剣玉パフォーマンスもありました。
石巻剣玉部 / 参加者 12名 |
| 7月24日 | 巻こたちはじめてのおつかい
地域のママたち主催で、テレビでおなじみのはじめてのおつかいを、石巻バージョンにアレンジして、商店街やらいつを会場に実施しました。
巻こたちはじめてのおつかい実行委員会、一般社団法人ISHINOMAKI2.0 / 参加者 18名 |
| 8月5,6日 | 街クエスト
石巻西高等学校の1年生が石巻の企業や団体について学び課題解決法を考えるまちクエスト。らいつも協力して、高校生たちがらいつを子どもたちにとってよりよくなるためにはどうしたらいいか考えてくれました。
石巻西高等学校、一般社団法人ISHINOMAKI2.0 / 参加者 11名、12名 |
| 10月31日、11月1日 | 子どものまち・いしのまき
子どもがつくる、子どもが主役のまち「子どものまち・いしのまき」。子どもが自分たちでまちの仕組みやお店、会社を考え、運営するまち体験イベントをらいつも協力して開催しました。
子どものまち・いしのまき実行委員会 / 参加者 200名、290名 |

子どもの 権利啓発

子どもセンターでは、子どもたちはもちろん、保護者や地域の方々、子どもセンターに関わるみなさんに、子どもの権利について知り、理解を深めてもらえるよう、イベントや掲示、出張講座などを行っています。



子どもの権利月間 11月1日～11月20日

2019年は、石巻市子どもの権利に関する条例が施行されて10周年。そして、国際条約である子どもの権利条約は、採択30周年、日本批准25周年の記念の年！もっと多くの子どもの権利について知ってもらいたいという思いから、11月20日「世界こどもの日」がある11月にらいつ館内を使って「子どもの権利月間～子どもの権利ってなあに？」を開催しました。

①子どもの権利に関する子ども向けワークショップ（カルタづくりなど）②子どもの権利に関するオリエンテーション（らいつ探偵）③子どもの権利に関する映像の上映④子どもの権利に関する展示⑤大人向けワークショップを行いました。

子ども向けワークショップでは、小学4年生～高校生が参加しました。子どもの権利カルタなどゲームやクイズをしながら権利について楽しく学んだ後、粘土や絵で自分の思う子どもの権利をそれぞれ表現しました。また、小学生から大人まで楽しみながら学べるように「らいつ探偵」と題した館内オリエンテーションを設置。自分や他の人のことを知るために、「自分やらいつの好きなところ」などを書いて、インタビューをしたり、子どもの権利が侵害されているようなイラストをみて、子どもの権利条約の何条に関わりそうか、イラストを見てどう思うかなどに答えてもらったりしました。動画上映では、らいつができた経緯がわかる動画や子どもの権利に関する動画を、利用者がゆったりしている時間に流しました。また、子どもの権利条約の内容を知ることができるように子どもの権利条約の43条までをギャラリーに掲示しました。ワークショップやオリエンテーションに参加した子どもたちからは「謎解きみたいで楽しかった」「子どもの権利についていろいろなことが知れた」と好評でした。

石巻市子どもの権利に関する条例10周年記念フォーラム 11月23日

石巻市が子どもの権利に関する条例を制定してから2019年で10周年ということで、記念フォーラムが開催され、子どもセンター職員も実行委員として参加しました。また、当日はらいつに來ている子どもたちも一緒に参加し、市が募集していた「子どもの権利標語」のらいつ賞として、利用者が多く投票した2つの標語を表彰したり、今後の石巻について話し合うワールドカフェに参加したりしました。「子どものことは、子どもの声を聞いて、子どもたちと一緒に考える」らいつで大切にしている「子ども参加」が地域や社会に広がっていくよう、これからも取り組んでいきます。

利用者の声

らいつは楽しいから、
また行けると思うと、
うれしくて心がフワフワする

卓球などいろいろな遊びが無料でできて楽しい

友達とかつくれたり一緒に遊べるから楽しい

らいつに来ているんな小学生、中学生、高校生と友達になった。らいつに来る前は大きな声でしゃべれなかった。学校にいるときは小さな声でしゃべっていた。学校にいるときの私とらいつにいるときの私は違う

自分のやりたいことを聞いてくれて、好きなようにやらせてくれる

子どもが2人いるので、どちらかを見ているときにスタッフの方がもう1人をみてくれているのがとても助かります。

とてもいい施設だと思います。土日や19時まで開館しているのも嬉しいです。

小学生になって保護者同伴ではなくても利用できるところ、年上の子が優しく遊んでくれる。

気兼ねなく孫達が自由に遊べる。孫達があきるまで遊んでいる。孫達が年代に応じて遊ぶおもちゃ用品がある。

子どもたちが自由に遊べる雰囲気がある。職員の方が見守ってくれている。

指定管理者「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」

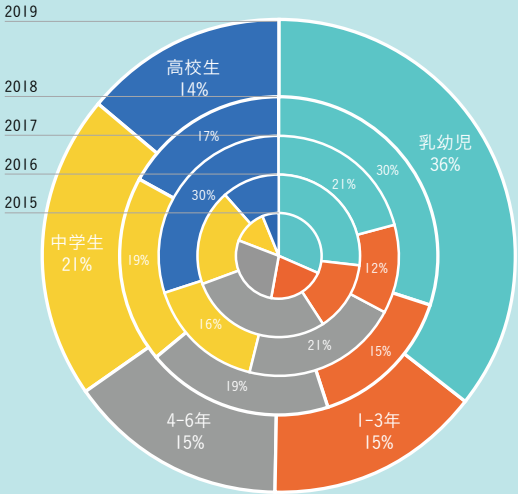
「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」は、「NPO法人ベビースマイル石巻」と「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」の2団体が構成されています。指定管理者選定のプレゼン時、子ども委員からの「子どもの最善の利益をどう考えますか?」「らいつの構想段階から、子どもたちとつながってきた地域や企業との絆をしっかりと引き継いでほしい」「スタッフを変えないでほしい」という声に回答しながら、単なる施設運営ではなく、子どもたちの大切な居場所を守る覚悟が必要だと改めて感じました。子どもの権利を柱に「子ども参加」で、子どもたちとともに運営しています。

データで見る子どもセンター

2019年1月から12月までの利用者延べ人数は、27,309名でした。昨年に比べ、約300名増加しています。一般来館者の年齢別割合を見ても、乳幼児から高校生までの世代が幅広く利用している点がいくつかの特徴です。館内では、乳幼児と小中高生が一緒にバスケットやおにごっこをしたり、小学生と高校生がカードゲームで対戦して遊んでいた様子が見られ、異年齢での遊びやコミュニケーションの場となっています。また、子ども企画では、高校生が開催した子ども企画に小学生が触発され、新たな子ども企画につながるなど、子どもたち同士で刺激し合っている様子がみられます。多くの中高生利用者が小学生時代から利用していることで、「異年齢の子どもたちがみんな気持ちよく過ごせる場」という文化が引き継がれていると感じます。

2019年利用状況の特徴としては、前年度に比べ乳幼児約800名、中学生約300名の利用が増加したことが挙げられます。乳幼児は、Mカフェなどをきっかけに、ママ友グループやサークルが生まれ、常連の利用者が増えたことが大きな要因であると考えられます。時には、保護者同士でお互いの子どもを預け合うなど子どもの育ちを共有する場にもなっています。パパの利用が多いこともらいつの特徴と言えます。中高生については、友達と遊びに来てスポーツをしたり、キッチンで料理をつくりみんなで食べたりする子もいれば、1人で楽器の練習に来たり、学校の帰りにひと休みに来る子など、利用方法は様々です。みんなが思い思いに過ごしている様子から、らいつが中高生の居場所になっていると感じます。

今後は小学校高学年や中高生の利用促進に向けた取り組みもしていきたいと考えています。これからも子どもたちの声を聴き、子どもたちが安心安全に利用でき、やってみたいが実現できるよう取り組んでいきます。

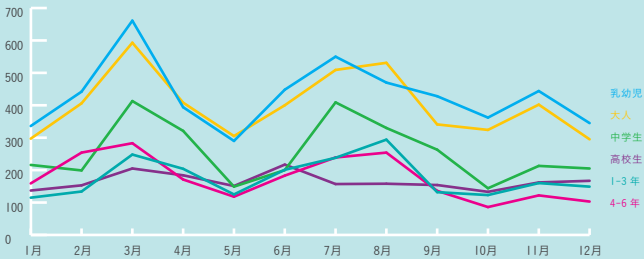


1-12月 一般来館者年齢別割合

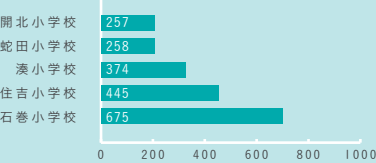
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	おとな	合計
一般来館	5,170	2,123	2,108	3,062	1,978	4,811	19,252
定期開催事業	1,318	155	241	103	190	1,197	3,204
行事	377	525	422	87	114	776	2,301
子ども企画	8	19	21	12	0	12	72
団体利用	702	134	201	34	44	1,013	2,128
見学	2	1	0	0	10	339	352
総合計	7,577	2,957	2,993	3,298	2,336	8,148	27,309

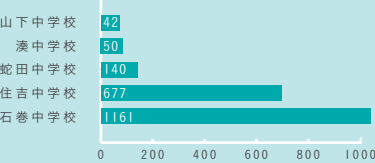
1-12月 一般来館者年齢別推移



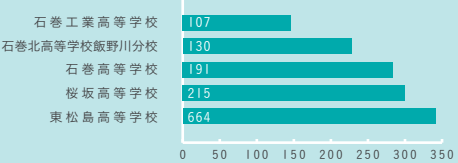
小学校別年間利用者数(上位5校)



中学校別年間利用者数(上位5校)



高等学校別年間利用者数(上位5校)



さいごに



子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。子ども参加とは、子どもたちの声をよく聞き、その声を運営や事業に活かしていくことです。子どもセンターではすべての事業に、子どもたちが意見を言う機会があり、その意見は事業に活かされています。ゴミの問題や飲食の場所など利用についても、子どもたちの利用者代表である子ども会議がどうするかを検討し、ルールを作ってきました。また、子どもたちがやりたいことを提案し、実現する仕組み「子ども企画」があります。子ども自身により、水遊び大会、カードゲーム大会、3on3大会などさまざまなイベントが提案実施され、活気あふれる子どもセンターの要素の1つとなっています。子ども参加を実現することは、じっくり子どもと向き合う手間と根気、そしておとなの理解が必要です。そして、子ども自身にも、自分の思いを伝える力、やりたいことを実現する力が必要です。それらの力は遊びや他者との関わり、話し合い、さまざまな体験などをとおして子ども自身が獲得していく力です。子どもセンターがこれからも子どもによる子どものための施設でありつづけるために、子どもの遊びの重要性を理解し、子どもが遊びを通して育つ場であるとともに、子どもの主体性を大切に、子どもの社会参画を実現する児童館として、また、世界に子どもたちの声を発信する拠点として、地域のみなさんのご理解を得ながら邁進したいと思います。



石巻市子どもセンター

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL:0225-23-1080 / FAX:0225-23-1081

開館時間 9:30～19:00

休館日 年末年始、祝日、第1・3木曜日

